

# Redécouvrons le cinéma français!

フランス映画入門

2025.2.8[土]▶▶3.9[日]

会場:東京日仏学院 エスパス・イマージュ

A l'Espace Images de l'Institut français de Tokyo



AMBASSADE  
DE FRANCE  
AU JAPON

INSTITUT  
FRANÇAIS



「フランス映画入門」では、すでに映画史において確固たる地位を築いているフランス映画を、今あらためて見ることによって、その現代性を再考します。  
映画研究者、映画批評家によるトークとともに、新たな光のもとで、選りすぐりの作品を発見、再発見しましょう！

上映作品／講師 Films & intervenant.e.s

《アリス・ギイ作品集》13作 13 courts métrages d'Alice Guy [フランス/計50分]

物語映画の最初期の監督であるアリス・ギイのフランス時代の短編13本。多くの作品が屋外で撮影されており、様々な映画の技法の発見、アクション、コメディ、メロドラマとアイデアに満ちた物語が展開する。

- 催眠術師の家[1898年/1分/モノクロ]
- 世紀末の外科医[1900年/2分/モノクロ]
- オペラ通り[1900年/1分/モノクロ]
- 全自動の帽子屋兼肉屋[1900年/1分/モノクロ]
- カメラマンの家[1900年/1分/モノクロ]
- フェリックス・マヨル 失礼な質問[1905年/3分/染色]
- マダムの欲望[1906年/5分/モノクロ]
- フェミニズムの結果[1906年/8分/モノクロ]
- キャスター付きベッド[1907年/4分/モノクロ]
- ソーセージ競争[1907年/5分/モノクロ]
- ピュット＝ショーモン撮影所でフォノセーヌを撮るアリス・ギイ[1907年/2分/モノクロ]
- バリケードを挟んで[1907年/5分/モノクロ]
- 銀行券[1907年/12分/モノクロ]



講師：坂本安美 [アンスティチュ・フランス 映画主任/映画批評]

微笑むブーデ夫人 *La Souriante Madame Beudet* de Germaine Dulac

[フランス/1923年/43分/サイレント・伴奏つき/モノクロ]  
監督：ジェルメーン・デュラク 出演：ジェルメーン・デルモーズ、アレクサンドル・アルキリエール  
1920年代の前衛芸術の先駆者であるジェルメーン・デュラクの『貝殻と僧侶』(1928)とならぶ代表作でフェミニスト映画の先駆と評される。自由を渴望するブーデ夫人は、平凡で退屈な存在の束縛から抜け出したいと思っている。残忍な夫に横暴に扱われる彼女が、日々の苦しみから逃れる唯一の方法は、夢を見ることだった。

講師：菅野優香 [同志社大学教員、映画研究]



パリ1900年 *Paris 1900* de Nicole Vedrès

[フランス/1947年/83分/モノクロ]  
監督：ニコル・ヴェドレス  
1900年から1914年までのパリを、ナレーションと約700本以上の記録・劇映画からの抜粋で綴り、当時の人々の生活と戦争への予感を見事に描き出したニコル・ヴェドレスの傑作ドキュメンタリー。映画批評家アンドレ・バザンに「文学におけるブルーストに匹敵する」と称え、クリス・マルケルも「私はニコル・ヴェドレスにすべてを負っている」と敬愛の念を示している。

講師：新田孝行 [フランス映画史研究]



たそがれの女心 *Madame de ...* de Max Ophüls

[フランス/1953年/100分/モノクロ]  
監督：マックス・オファルス 出演：ダリエル・ダリユー、シャルル・ボワイエ、ヴィットリオ・デ・シーカ  
1953年舞台は1900年、ベル・エポックの華やかなパリ社交界。ダイヤの耳飾りをめぐり、運命の歯車にもあそばされる上流階級の男女の人間模様をオファルスが描くメロドラマの傑作。ルイズ・ド・ヴィルモランの斬新な世紀末小説をオファルスが映画化した本作では、この監督が得意とするエレガントで精緻なカメラワークが驚くほど効果的に使われている。

講師：斉藤綾子 [映画研究、明治学院大学文学部芸術学教授]



ヒロシマ・モナムール *Hiroshima mon amour* d'Alain Resnais

[フランス＝日本/1959年/91分/モノクロ]  
監督：アラン・レネ 脚本：マルグリット・デュラス 出演：エマニュエル・リヴァ、岡田英次  
フランス人女優と日本人建築家は、戦後の広島で東の間の濃密な情事を交わし、互いに惹かれあう気持ちだが、傷ついた愛と苦しみの記憶を呼び覚ます。斬新なフラッシュバックの構成と、マルグリット・デュラスの脚本による本作は、過去と現在、個人的な痛みとより大きな苦悩が繊細に織り成され、「映画の限界を押し広げた」(ジャン＝リュック・ゴダール)。

講師：須藤健太郎 [映画批評家]





## アルファヴィル *Alphaville* de Jean-Luc Godard

[フランス/1965年/99分/モノクロ]

監督:ジャン=リュック・ゴダール 出演:エディ・コンスタンティヌ、アンナ・カリーナ、エイキム・タミロフ

人口知能アルファ60によって支配されている銀河帝国のアルファヴィルを舞台に、感情を失った独裁者の娘に人間性を回復させようとする孤独な男の闘いを描いたハードボイルドSFの傑作。ラウル・クタールの光と影を強調した映像、特撮を使用せず60年代パリのモダンな建築物の実景を利用して都市空間、ボルヘスのエッセイやエリュアールの詩など文学的引用の多いセリフ等、ゴダールらしい実験精神にあふれている。

講師:廣瀬純 [龍谷大学教員、映画批評家]



© DR

## アウト・ワン スペクトル *Out 1 spectre* de Jacques Rivette

[フランス/1972年/264分/カラー] \*途中休憩あり 監督:ジャック・リヴェット

出演:ジャン=ピエール・レオ、ジュリエット・ベルト、ベルナデット・ラフォン、ビュル・オジェ、ミシェル・ロンズデル

ジャック・リヴェットが13時間に及ぶ大作『アウト・ワン 我に触れるな』を短く再編集した本作は、オリジナルを凝縮したというより、過激に編集、アレンジされ、新たなつながりや意味が生まれた単独で成立する作品となっている。大筋は変わらない:パリを舞台に、ジャン=ピエール・レオとジュリエット・ベルトが演じる風変わりなふたりは、ふたつの前衛劇団と秘密結社が絡む不吉な陰謀に巻き込まれていく。

講師:大寺真輔 [映画批評家]



© DR

## 湖のランスロ *Lancelot du lac* de Robert Bresson

[フランス/イタリア/1974年/84分/カラー]

監督:ロベール・ブレッソン 出演:リュック・シモン、ローラ・デュク・コンドミナス、アンベール・バルザン

時は中世。城に帰還したものの、聖杯探しに失敗し多くの戦死者を出したアルテュス王の円卓の騎士たち。その中のひとり、ランスロは王妃グニエーヴルとの道ならぬ恋に苦悩していた。神に不倫をやめると誓うランスロだったが、グニエーヴルにその気はない。団結していたはずの騎士の間に亀裂が入り始め、思わぬ事態に……。素人の俳優の起用、抑制された演出、緻密な音響・空間設計など、現代的感覚に満ちたブレッソンによる「極めて特異な内面の冒険」(ロベール・ブレッソン)。

講師:三浦哲哉 [映画研究、評論]



© DR

## インディア・ソング *India Song* de Marguerite Duras

[フランス/1974年/120分/カラー]

監督:マルグリット・デュラス 出演:デルフィーヌ・セリグ、ミシェル・ロンズデル、マチュー・カリエール、クロード・マン

全編においてオフの声を活用し、映像と音響の関係の新たな境地を開いたデュラスの映画における代表作。1930年代のインド・カルカッタ。豪華で朽ち果てた大使館の閉ざされた壁の中で、フランス大使夫人アンヌ=マリー・ストレットレルは複数の男たちとの情事を通して倦怠をしのいでいる。そしてその倦怠は、驚くべき狂気の噴出によって打ち砕かれていく……。

講師:坂本安美 [アンスティチュ・フランス 映画主任/映画批評]



© DR

## 《クリス・マルケル名作集》3 films de Chris Marker

### シベリアからの手紙 *Lettre de Sibirie* [フランス=ソ連/1957年/61分/カラー]

書簡形式のナレーションを決定づける台詞など、クリス・マイケルが独自のスタイルを持った映画作家として注目を集める契機となり、アンドレ・バザンに「エッセイ映画」と紹介された作品。開発途上のシベリアの街と大地、そこに生きる人々の風景が、随所に挿入されるアニメーションやアーカイブ映像によって重層的にとらえられる。

### サン・ソレイユ *Sans soleil* [フランス/1983年/104分/カラー]

世界中を旅するカメラマン、サンドール・クラスナから届いた手紙を朗読する女性。その声に合わせて、クラスナが「生の存続の二極地」と呼ぶ、日本とアフリカを中心とした映像が繋がっていく。時間と場所、記憶と歴史、表象の問題について深い考察がなされたマルケルの代表作。

### レベル5 *Level Five* [フランス/1996年/110分/カラー] 出演:カトリーヌ・ベルコジャ

ローラは、亡くなった恋人の代わりに、沖縄戦についてのコンピューター・ゲームを完成させようとする。『パリ1900年』や『ローラ殺人事件』、『光あれ』などの参照、引用がなされた映画史的記憶に満ちた作品であると同時に、インターネット的なネットワーク状に拡張していく編集に特徴付けられた、非常に複雑なメディア性を持った作品。

講師:東志保 [大阪大学大学院文学研究科助教、映画研究/比較文化論]



© 1957 Argos Films



© 1983 Argos Films



© 1996 Argos Films



2.8 [土]	16:45	湖のランスロ <i>Lancelot du lac</i> [84分]	2.22 [土]	12:45	アリス・ギイ作品集 13 courts métrages d'Alice Guy [50分] アフタートーク [約40分] 講師:坂本安美 suivi d'une conférence par Abi SAKAMOTO
	18:30	映画のアトリエ 「バート・ランカスターがランスロだった? — 娯楽映画とプレッソ、再考」 [約90分] 講師:三浦哲哉 Atelier cinéma par Tetsuya MIURA		15:00	微笑むブーデ夫人 <i>La Souriante Madame Beudet</i> [43分] アフタートーク 「デュラックにみる アヴァンギャルドとフェミニズム」 [40分] 講師:菅野優香 suivi d'une conférence par Yuka KANNO
2.9 [日]	12:30	インドア・ソング <i>India Song</i> [120分] 上映前に坂本安美による作品紹介あり Précédé d'une présentation par Abi SAKAMOTO	2.23 [日・祝]	17:30	たそがれの女心 <i>Madame de...</i> [100分]
	15:30	ヒロシマ・モナムール <i>Hiroshima mon amour</i> [91分]		11:00	パリ1900年 <i>Paris 1900</i> [83分]
2.14 [金]	17:00	湖のランスロ <i>Lancelot du lac</i> [84分]	3.7 [金]	13:00	映画のアトリエ 「条件法のフランス(映画)史 — ニコル・ヴェドレス『パリ1900年』」 講師:新田孝行 Atelier cinéma par Takayuki NITTA
	19:00	ヒロシマ・モナムール <i>Hiroshima mon amour</i> [91分]		15:00	アウト・ワン スペクトル <i>Out 1 Spectre</i> [264分] *途中10分休憩あり* 10 minutes de pause au milieu du film
2.15 [土]	11:30	インドア・ソング <i>India Song</i> [120分]	3.8 [土]	16:45	パリ1900年 <i>Paris 1900</i> [83分]
	14:40	たそがれの女心 <i>Madame de...</i> [100分]		19:00	レベル5 <i>Level Five</i> [110分]
2.16 [日]	17:30	映画のアトリエ 「オフルスの女たち 移動するカメラと女性の欲望」 [約90分] 講師:斉藤綾子 Atelier cinéma par Ayako SAITO	3.9 [日]	13:30	サン・ソレイユ <i>Sans Soleil</i> [104分]
	13:00	アウト・ワン スペクトル <i>Out 1 Spectre</i> [264分] *途中10分休憩あり* 10 minutes de pause au milieu du film		16:00	シベリアからの手紙 <i>Lettre de Sibérie</i> [61分] アフタートーク [40分] 講師:東志穂 suivi d'une conférence par Shiho AZUMA
2.21 [金]	18:00	映画のアトリエ 「リヴェットとヌーヴェル・ヴァーグの ポスト68年」 [約90分] 講師:大寺眞輔 Atelier cinéma par Shinsuke ODERA	3.8 [土]	18:00	レベル5 <i>Level Five</i> [110分]
	14:00	湖のランスロ <i>Lancelot du lac</i> [84分]		13:30	サン・ソレイユ <i>Sans Soleil</i> [104分]
2.21 [金]	16:00	アウト・ワン スペクトル <i>Out 1 Spectre</i> [264分] *途中10分休憩あり* 10 minutes de pause au milieu du film	3.9 [日]	16:00	アルファヴィル <i>Alphaville</i> [99分]
				18:15	映画のアトリエ 「いかにしてパリはアルファヴィルに 転じられるのか」 [約90分] 講師:廣瀬純 Atelier cinéma par Jun HIROSE

入場料金:一律1,100円 ★『アウト・ワン スペクトル』の回のみ1,500円(全席自由/整理番号順)

Peatix (<https://ifjtokyo.peatix.com/events>)にて1/20(月)12:00より発売。

\*窓口販売はございませんのでご注意ください。上映開始15分前開場:上映開始10分後以降の入場はご遠慮ください。



### 「フランス映画入門」

主催・会場:東京日仏学院 助成:CNC 協力:アイ・ヴィー・シー、マーメイド・フィルム、大寺眞輔氏、パンドラ



### Redécouvrons le cinéma français !

Organisé par l'Institut franco-japonais de Tokyo, avec le soutien du CNC. Remerciements : IVC, Mermaid Films, Shinsuké Odera, Pandora

### 会場・お問い合わせ:東京日仏学院

〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15

tel:03-5206-2500 fax:03-5206-2501

[www.institutfrancais.jp/tokyo](http://www.institutfrancais.jp/tokyo)

f instituttokyo

X institut\_tokyo

Instagram institut\_tokyo

